

8/4(火)第2回姫路市経済有識者会議 発言要旨

姫路市産業振興課

第2回姫路市経済有識者会議 > 事務局報告

経済・観光・国際それぞれの計画の進捗を報告した。

重複領域については計画間ですり合わせ、記載内容を調整。

経済

統計データや政府資料を通して現状を整理し、「10年後のあるべき姿」および「中期方針」を定義。現在、「政策」を検討中。

10年後のあるべき姿：**挑戦と新たな価値が循環する 働きやすく・くらしやすい姫路**

中期方針…10年後のあるべき姿を実現するため、8つのカテゴリーごとに設定した計画期間で達成すべき目標

政策…中期方針で定めた目標を実現するために、行政や関係者が取り組む事業の方向性

（重複領域の調整）

国際：「企業の外国人材の受入・定着」「地元企業の海外展開」をビジョンで記載

観光：成長産業の分野のひとつとして取り扱い、複数の政策に記載を盛り込む

観光

姫路市の現状と課題を整理し、「10年後のあるべき姿」および「戦略」を設定。

10年後のあるべき姿：**姫路城を核に、文化・暮らし・地域経済をまち全体で育てる持続可能な滞在型観光**

戦略…10年後のあるべき姿を実現するため、6つのカテゴリーごとに設定した計画期間で達成すべき目標

（重複領域の調整）

経済：「人材分野」「地域経済の活性化」について両者で記載内容を調整する

国際：「インバウンド・国際会議受入」「都市ブランド力向上」について両者で記載内容を調整する

国際

SWOT分析で現状を「強み」「弱み」で整理し、「戦略」を設定。

基本目標…**世界とつながる「Himeji of Japan」へ**

戦略…SWOT分析から7つの戦略を導く

（重複領域の調整）

観光：「観光・文化・MICEによる都市魅力の発信」について、施策の整合性を図る

経済：「姫路経済のグローバル化と産業活力の創出」について、施策の整合性を図る

第2回有識者会議 > 発言要旨（全体）

個別政策に姫路固有の資源や取組（≡姫路らしさ）を反映し、実効性のある計画とすることについて幅広く意見交換を行った。

8/4（火）有識者会議 主な発言

計画の実効性

- 各計画は形になってきているが、ビジョンは社会実装されて初めて価値を持つ。スローガンの作成にとどまらず、実行に移す仕組みが必要。

10年後の環境変化

- 中国の動向や鉄鋼業を取り巻く環境など、10年先の不確実性は大きい。将来を精緻に予測するのではなく、変化に対応できる方向性を示すことが重要。

姫路らしさ

- AIでも一般的なビジョンを作れる時代だからこそ、姫路固有の産業、文化、地域資源を踏まえた内容にする必要がある。

「姫路らしさ」の明確化と社会実装

- 一般的な理念やスローガンではなく、姫路固有の資源・産業・文化・人の取組を政策に落とし込む必要がある。
- 姫路は、姫路城、ものづくり企業、山・海、外国人コミュニティなど、多様な魅力を有している。
- 「姫路らしさ」は一つに固定するのではなく、関心や立場によって異なる多様な魅力を包含する考え方も必要。
- 人口減少社会において、新しい挑戦や価値の創出を受け止める懐の広いまちであることを、市民向け・対外向けのメッセージとして示すべき。
- 経済、観光、国際の各分野の土台として、文化芸術の役割も重要。文化を含めた横断的な視点で姫路の魅力を捉える必要がある。
- 様々な要素を持つこと自体を姫路の特徴としつつ、計画では必要な分野を見極め、選択と集中を図ることが求められる。
- 基本方針は他都市と共通する部分があっても、個別政策に姫路固有の資源や取組を反映することで、計画に「姫路の色」を付けていく。

行政の役割

- 行政が全てを実施するのではなく、地域の取組を支援・発信し、必要に応じて伴走する役割も考えられる。
- 様々な主体にメッセージと支援が届くビジョンを目指す

第2回有識者会議 > 発言要旨（経済）

海外・国内双方の可能性を見据え、姫路の産業集積と人材確保を一体的に検討すべきとの意見が挙がった。

海外展開、フィジカルAI、外国人材をめぐる意見

- 市内企業の海外展開については、姫路市の発展にどのような効果をもたらすのかを整理して示す必要がある。
 - ・ 国内市場の縮小に対応するため、市内企業の海外展開を通じて、新たな市場を獲得する必要があるものと理解している。
- フィジカルAIの進展により、将来的に人手をかけず国内で生産を拡大できる可能性もある。海外展開だけでなく、ロボット等の活用により国内での工場展開もあり得るのではないかな。
- 一方、フィジカルAIによる複雑な製品の生産や最終製品の信頼性確保を完全に自動化することには限界があり、異なる視点を持つ外国人材との協働は引き続き重要である。
- 外国人材の受入れは、人口減少に伴う労働力不足への対応に加え、姫路経済の維持・発展を目的として捉える必要がある。

産業誘致・域内外連携

- 既存産業と競合しにくく、姫路に必要な産業を見極め、地域全体で支援する取組が必要ではないかな。
- 新たな産業集積の形成には、市役所だけでなく、商工会議所等の経済団体や企業との連携が不可欠。
- 神戸と姫路は相互に影響する関係にあり、姫路市内だけでなく、広域的な視点で産業振興を考える必要がある。

第2回有識者会議 > 発言要旨（観光）

観光産業の確立に向け、役割の明確化や収益化の検討が重要。また、既存資源を組み合わせパッケージ化して打ち出すことの必要性について意見が挙がった。

観光産業の位置付けと担い手

- 外国人に観光で訪れてもらうことと、外国人材として地域に定着してもらうことは、目的を分けて整理する必要がある。
- 観光を持続的な産業として育てるには、市が全てを担うのではなく、案件ごとに以下を明確にする必要がある。
 - キープレーヤー，運営主体，相談・受付窓口，料金設定，サービス品質，収益化の方法
- 観光による市への直接収入は限定的であり、重工業等とは税収構造が異なるため、経済波及効果と市の収入を区別して考える必要がある。
- 姫路はものづくりのまちとしての強みを持つ一方、姫路城や中心市街地を活用した観光振興にも取り組んでいる。特定分野に偏らず、各分野の成長をバランスよく進めることが重要。

観光コンテンツと都市基盤

- 個別の観光資源を掘り起こすだけでなく、既存資源を組み合わせたプログラム化・パッケージ化が必要。
- 新アリーナやアクリエひめじ等の都市基盤について、観光・経済活動との具体的な接続を検討する必要がある。
- アリーナでは、スポーツコミッションを通じた大会・イベント誘致を進めるとともに、アクリエひめじとの役割分担を整理する。
- アクリエひめじは誘致に加え、来訪者の満足度向上や市内消費の促進につなげる段階にある。

第2回有識者会議 > 発言要旨（国際）

多文化共生の実現について、地域の一員として日常的な接点を増やすことの重要性が議論された。

多文化共生と市民の受入れ意識

- インバウンドや外国人材の受入れを進めるには、外国人側だけでなく、市民側の受入れ意識を高める必要がある。
- 多文化共生は、外国人に一方的に適応を求めるのではなく、市民が外国人とどのように接し、共に暮らすかを考える取組である。
- 外国人を単なる労働力として捉えるのではなく、高度人材や留学生を含め、地域の一員として受け入れる土壌をつくるべきである。
- 外国人材については、日本人と同じ仕事を担う以上、同じ待遇を基本とする考え方が重要。
- 多文化理解講座のように関心のある人だけを対象とする取組には限界があるため、小規模な地域行事などを通じて、日常的な接点を増やす必要がある。
- 特定の国籍の人が特定地域に集住してしまうと地域住民との交流が生まれにくい。外国人住民と地域住民が自然に接する仕組みづくりが求められる。
- 外国人住民には、地域文化や日本人住民と触れ合いたいというニーズもあり、地域活動への参加機会を広げることが重要。